平成２５年５月 経営協議会議事録

Ⅰ．日　時　平成２５年５月８日（水）　１４時００分～１５時１５分

Ⅱ．場　所　けやき会館レセプションホール（３階）

Ⅲ．出席者　齋藤学長、赤田、有馬、加賀見、島田、
山本、長澤、徳久、嶋津、池田、北村、木庭、宮崎各委員
（欠席：犬養、井上、黒木、佐久間、桜田、　舩橋、堀 各委員）
陪席者　来栖監事

議事に先立ち、学長から挨拶があり、続いて、新たに学内委員に就任した北村彰英工学研究科長の紹介があった。

Ⅳ．前回経営協議会議事録について
原案のとおり承認された。

Ⅴ．報告事項（○：学外委員、◎：学内委員）

１．中長期的な入学時期の在り方（最終報告）について

山本理事から、中長期的な入学時期の在り方（最終報告）について、資料に基づき報告があった。

○　先日大臣が、高校生が３月に卒業した後、９月までの半年間で留学する場合に奨学金を出す話をしていたが、今回の検討の前提として、社会、特に高校までは従前通り３月までであろうと考えているのか。検討を進めるほど話が難しくなり、結局断念する大学も多いようだ。

◎　大学で秋入学を完全に導入するためには、小中高も秋までで終わりになることが一番ではある。大学卒業と同時に資格取得をするものが数多くあるが、それらは秋入学になった場合には現在と時期をずらす必要がある。大学だけが変わるのは現実的には難しい。高校を２年半で卒業できる制度が作られれば、大学は４月でも９月でも入学時期を設けることは可能であると考える。社会としても柔軟性の面から良いのではないかと考えている。

○　飛び入学制度で入学した学生達のその後はどうなっているのか。

◎　２４年５月時点のデータだが、これまで５１名が学部を卒業しており、大半が修士課程に進み、修了後も半数は博士課程に進んでいる。ほとんどが理系である。

○　社会全体の制度を変えていく必要がある。今は９月卒業生の場合、就職の際新卒扱いになっていない企業が多い。処遇面で差が出る場合がある。

◎　本学においても「社会が変わらないと大学だけが変わっても仕方がない。」「日本では親が経済的に学生を支えており、入学前と卒業後のそれぞれ半年も支えるというのは無理だろう。」といった意見があった。

○　東大も推薦入学を採用するとのことだが千葉大学では検討しているのか。
◎　２３００人中１８０人が推薦である。医学部は導入していない。医学部でも検討したことがあるが、最初の５年程度高校は良い学生を送り出してくるが、受入れ高校が固定化してくると、高校はテクニックとして、学校内で１番目・２番目にできる学生は東大などの難関大学を受験させ、５番目くらいの学生に推薦入学をさせている。

２．松戸市と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定の締結について
　山本理事から、松戸市と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定の締結について、資料に基づき報告があった。

３．スキップワイズ・プログラム（グローバル人材育成推進事業）について
　長澤理事から、スキップワイズ・プログラム（グローバル人材育成推進事業）について、資料に基づき報告があった。

４．平成２５年度千葉大学入学状況について
　長澤理事から、平成２５年度の千葉大学入学状況について、資料に基づき報告があった。

５．平成２４年度国際交流協定の締結状況について
　徳久理事から、平成２４年度国際交流協定の締結状況について、資料に基づき報告があった。
○　協定校に派遣する場合、受け入れる場合など具体的な活動は活発におこなわれているか。
◎　学費の関係があるので派遣は主に協定校へ、受け入れは学部学生を中心に活発におこなっている。国立六大学の協定があるのでさらに拡大する見込みである。国立大学の連携により現地でのＩＥＣオフィスは拡大している。
○　協定締結に至る背景は何か。
◎　多くは研究者の共同研究などの交流からはじまっている。
○　受け入れの場合のレジデンス等の対策はあるのか。
◎　絶対数が足りない。インターナショナルサポートデスクを設置したが、大学がホームステイ先を探すような活動はしていない。

６．学長選考会議委員について
　学長から、学長選考会議委員のうち、教育研究評議会選出委員５名が選出された旨資料に基づき報告があった。

以上